

研究成果については、「研究紀要」をもって報告した。

③ 道徳教育に関する研究

学校の教育目標・各学年目標及び指導の重点と道徳教育目標との一貫性を図り、道徳の授業の充実についてはもちろん、学校の全教育活動の中で養う道徳性を、計画的、発展的に指導するために、道徳教育全体計画の改善について研究した。

2 教科における学習能力の発達と授業に関する研究

(1) 研究の視点

この研究は、児童・生徒の学習能力開発の一環として調査研究したものであり、今年度は第2年次として昨年に引き続き、児童・生徒の学習能力が授業を進めていく中で、どのような形成過程をとるかを明らかにし、特に授業そのものの内面的充実を図り、授業における児童・生徒のつまずきの原因の究明に当たった。

(2) 研究内容と方法

小学校の3教科(3年生国語・2年生社会・4年生算数)を対象にして、主として実際の授業の面から、当面の学習において伸ばしたい能力と、先行経験によって得られた前提能力の両面を考え、学習活動を通して伸びつつある能力や、伸びやんでいる児童・生徒の学習能力の実態や問題点を究明した。

- ① 前提能力と思考のつまずきの解明(国語・社会)
- ② 授業場面での思考(筋道を立てて考える能力)の形成過程(算数)
- ③ 前提能力調査と研究協力員による実証授業

(3) 研究の概要

① 国語科

読解過程における要点のとらえ方を究明し、児童の思考のつまずきに対する指導のあり方について、「要点を把握する能力」の観点から授業を通して追究した。

② 社会科

児童の資料活用能力を育てるために、指導過程の中で「望ましい資料」「望ましい資料提示の機会」について研究し、資料活用による児童の反応の変容状況を授業を通して追究した。

③ 算数科

筋道を立てて考えていく能力を、児童の具体的な反応や、思考のつまずきの面から研究し、能力の形成過程を五段階学習過程(問題をとらえる・予想を立てる・解決する・たしかめる・まとめる)によって明らかにすることをねらいとし、「計算のきまりを発見する能力」の観点から、授業を通して追究した。

3 福島県診断標準学力検査問題の研究

(1) 研究の視点

現在使用されている福島県診断標準学力検査問題と同様の信頼度と精度をもち、テスト時間二分の一の問題作成の要望にこたえることと、新教育課程実施による測定領域の変化に対応するため、福島県診断学力検査問題を作成し、

標準化を図った。

また今年度は、本県における小学校児童の現有力や、指導活動の実態を把握して、教育課程や学習指導方法の改善の基礎資料を得ることをねらいとして、小学校6年終了時の学力テストを実施した。

(2) 研究内容と方法

① 福島県診断標準学力検査問題の研究

ア 算数の「数量関係」「図形」「量と測定」について、新たな観点から所要時間40分の問題を作成し、「数と計算」の領域の問題について再構成した。(学年は4・5・6学年、問題作成委員9名を委嘱)

イ 作成した問題の予備テストを実施して、テスト問題の標準化をすすめた。

② 福島県診断標準学力検査の実施

小学校第6学年の課程終了時における児童の学習の習得状況は把握するために、中学校1年生を対象に国語・社会・数学・理科の4教科で生徒数2,000名を、地域区分A・B・Cの各層より抽出して実施した。データ処理にはコンピュータを使用し、教科指導上の手がかりを究明した。結果は報告書による。

なお、本県の診断標準学力検査の問題について、その活用の現状を探り効果的活用を図るため、検査問題の信頼性・妥当性及び診断性について吟味を加え、今後の改善の方向を検討した。活用の面については今年度の全教連全国大会(北海道)で発表した。

4 教育相談の基礎的研究

(1) 研究の視点

現代の小学生像とはどのようなものなのか、さらには、そのような児童にはどのような教育がなされるべきなのかを、校長、担任教師、父母の立場から多面的にとらえ、今後の小学校教育に最も適した生徒指導のあり方等について、調査研究することを目的として実施した。

(2) 調査の方法

① 調査対象

福島、郡山、会津若松、いわきの4市から、市中心部の小学校、市内地区の小学校、市周辺地区の小学校を各1校ずつ抽出し、それらの小学校の1年生から6年生までの各1クラス、計72学級の父母2,352名と、クラス担任72名、校長12名を対象にした。

② 調査内容

調査は、質問紙法により実施したが、その内容は次のとおりである。

ア 父母を対象とするアンケート(質問項目21)

イ 担任を対象とするアンケート(記述式)

ウ 校長を対象とするアンケート(記述式)

(3) 集計・分析の考察

- ① 共働きの父母が半数近く、母の求職要求が非常に強い。この傾向は今後も増加するであろう。
- ② 父母のしつけが過干渉気味である。
- ③ 映像文化の影響が強烈である。
- ④ 塾、習い物に通う子供の数が半数に達し、2つ3つと重ねて通う者が2割にも達している。